

# 平成30年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－2号)

農林総合研究センター  
平成30年5月28日調査

## 気象経過

< 平年対比 >

### 【平均気温】

- ・5月第4半旬は、金沢、輪島ともにかなり高くなった(平年差:金沢+2.9℃、輪島+2.7℃)。
- ・5月第5半旬は、金沢は高く、輪島は並となった(平年差:金沢+1.3℃、輪島±0.0℃)。

### 【日照時間】

- ・5月第4半旬は、金沢、輪島ともにかなり少なかった(平年比:金沢58%、輪島59%)。
- ・5月第5半旬は、金沢輪島ともにかなり多くなった(平年比:金沢140%、輪島133%)。

### 【降水量】

- ・5月第4半旬は、金沢は多く、輪島はかなり多くなった(平年比:金沢132%、輪島244%)。
- ・5月第5半旬は、金沢、輪島ともに多くなった(平年比:金沢139%、輪島126%)。

### 【1ヶ月予報】

5月25日発表の1ヶ月予報(5月26日～6月25日)では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

## 生育概況等

### 【本田の生育】

1. 草丈は、コシヒカリは平年比76～111% (県平均102%:加賀:100%、能登:104%)、と概ね平年並で前年に比べやや短い。ゆめみづほは、近年比96～119% (県平均:103%、加賀:100%、能登:110%) と加賀地域は近年並で前年よりやや短く、能登地域は近年より長く前年並。ひやくまん穀は、前年比95%～104% (県平均:95%、加賀:90%、能登102%) と加賀地域で前年より短く、能登地域は前年並。
2. 茎数は、コシヒカリは平年比49～107% (県平均:78%、加賀:71%、能登92%) と加賀地域で平年、前年より少ない。能登地域では平年並で前年より少ない。  
ゆめみづほは、近年比68～117% (県平均:88%、加賀:85%、能登:97%) と加賀地域で平年よりやや少なく、前年より少ない。能登地域では近年並で前年より少ない。  
ひやくまん穀は、能登の前年比54%～95% (県平均:70%、加賀:58%、能登:91%) となっており加賀地域で前年より少なく、能登地域では調査田の移植日が前年より4～8日早まったものの、分けつの発生は見られず前年並となった。
3. 葉齢は、コシヒカリは平年比75～101% (県平均:97%、加賀:-0.6葉、能登:-0.5葉)、ゆめみづほは近年比88～104% (県平均:98%、加賀:-0.2葉、能登:±0.0葉)、ひやくまん穀は、前年比85～158% (県平均:4.8葉、加賀:-0.5葉、能登:+0.7葉) となっている。  
葉齢展開は、コシヒカリは平年に比べ1～2日程度遅く、前年より3～4日遅い。ゆめみづほは概ね近年並で前年より3～4日遅い。ひやくまん穀は加賀地域で前年より3～4日遅く、能登地域で前年並となっている。

㎡当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	105本	（平年比 78%	前年比 59%）	5.8 本/株
	加賀	102本	（平年比 71%	前年比 55%）	5.6 本/株
	能登	110本	（平年比 92%	前年比 68%）	6.0 本/株
ゆめみづほ	県平均	129本	（近年比 88%	前年比 62%）	7.0 本/株
	加賀	138本	（近年比 85%	前年比 63%）	7.7 本/株
	能登	112本	（近年比 97%	前年比 60%）	5.7 本/株
ひやくまん穀	県平均	73本	（平年比 —	前年比 70%）	4.1 本/株
	加賀	76本	（平年比 —	前年比 58%）	4.5 本/株
	能登	70本	（平年比 —	前年比 91%）	3.8 本/株

【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシによる食害が県内全域で散見されるほか、一部地域では、イネゾウムシ、イネドロオイムシおよびイネハモグリバエ幼虫の食害が散見されている。また、雑草地における斑点米カメムシ類の生息数はやや多くなっている。

当面の対策

1. 湛水状態が続いているところでは土壌中の還元化が進んでいるので、直ちに1～2日程度の軽い田干しを実施し、根の活力を高めるとともに稲体の健全化を図ること。また、**茎数の少ない圃場では浅水管理とし、早期の茎数確保に努めること。**
2. 茎数の増加がコシヒカリ、ゆめみづほともに平年並～遅れており、中干しの開始は、**田植後1ヶ月を目途に目標穂数の7割に達したら直ちに行うこと。**

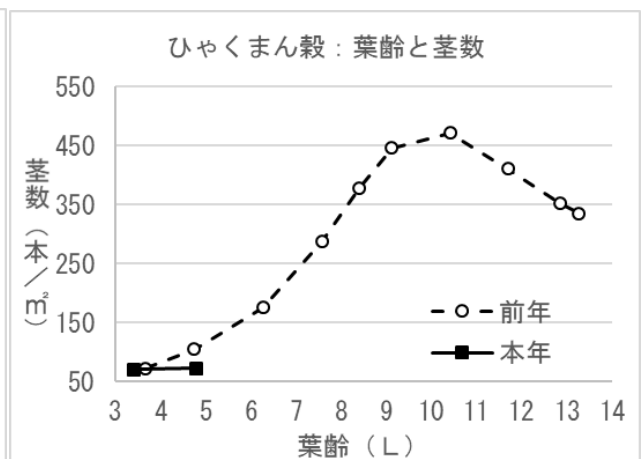
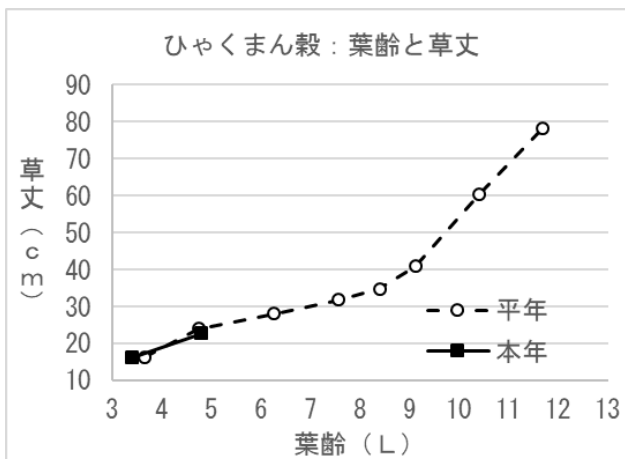
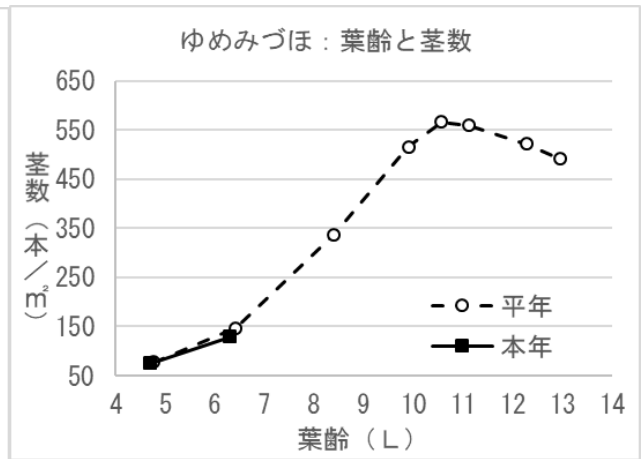
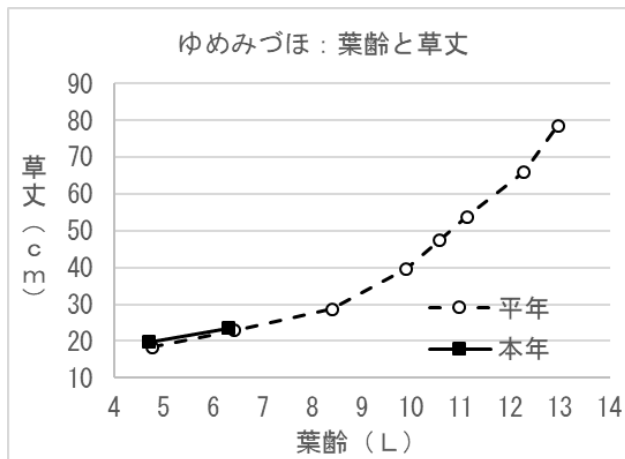
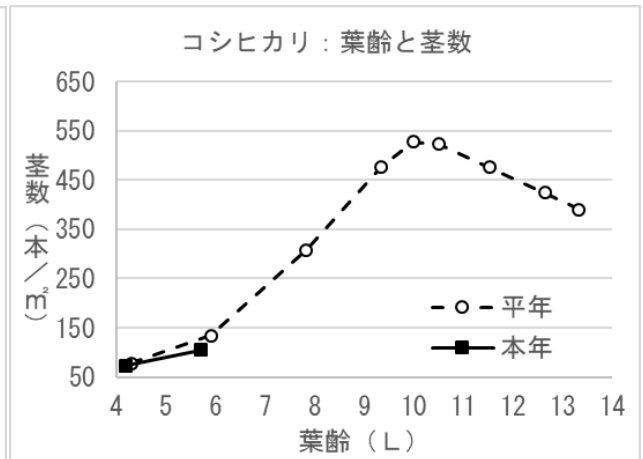
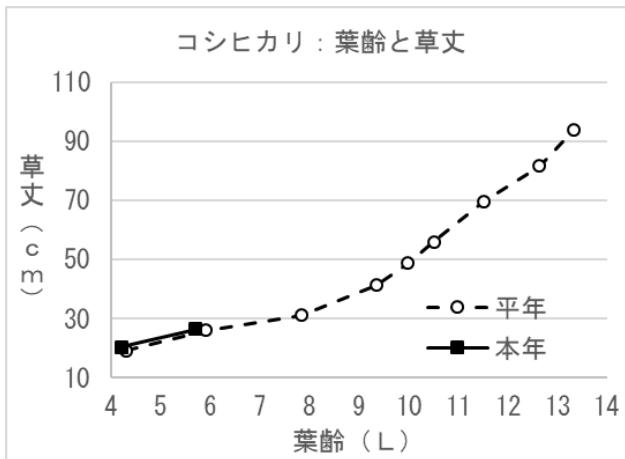
	ゆめみづほ	コシヒカリ	ひやくまん穀	備 考
目標穂数	490	390	360	㎡当たり
中干し	343	273	252	㎡当たり
開始茎数	19	14～15	14	株当たり（60株植の場合）

3. 中干しを確実に実施するため、溝切りを行うこと。
4. 本田に放置された補植苗は、本田のいもち病の伝染源となり早期多発を招くので、早急に取り除くこと。
5. 移植時に箱施薬を実施していない圃場では、いもち病の防除適期を逸しないように予防粒剤を必ず散布すること。散布時期の目安は田植時期にかかわらず下記のとおりである。  
 加賀平坦部：6月10～15日      加賀常発地：6月10日頃  
 能登平坦部：6月10～20日      能登常発地：6月10～15日
6. イネドロオイムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、6月上旬に1株当たり1卵塊以上認められたら、直ちに防除を行なうこと。
7. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり0.3頭以上認められたら、湛水状態で粒剤を散布すること。
8. **斑点米カメムシ類は、気温の上昇に伴い急激に増加しやすいので、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底すること。**  
 なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意すること。

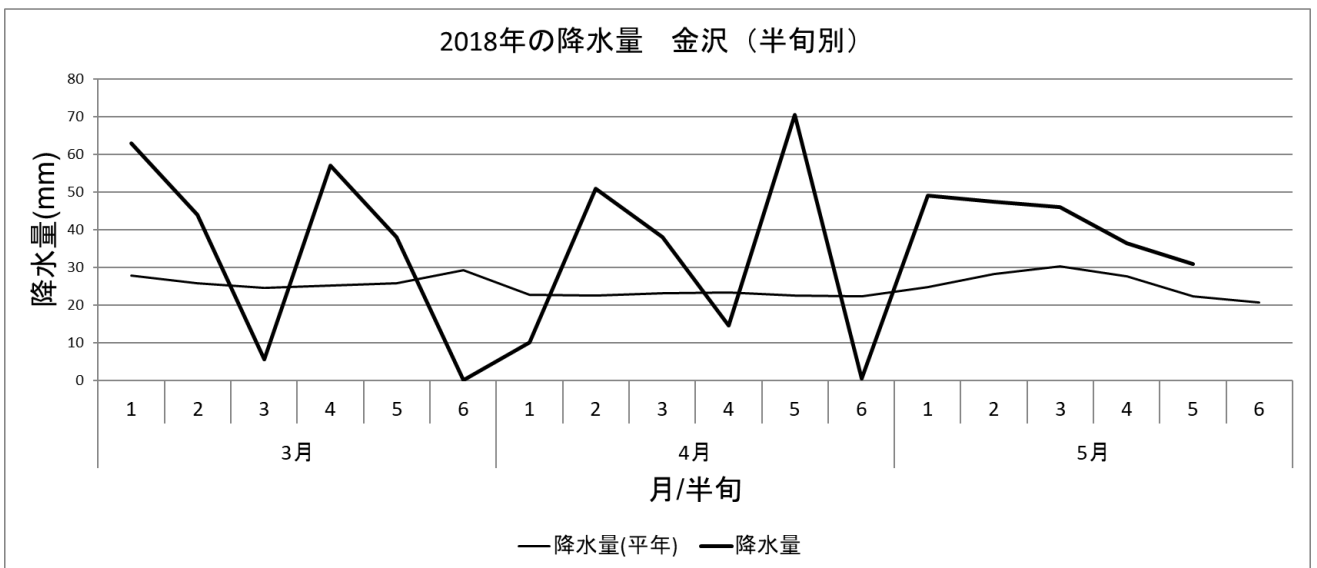
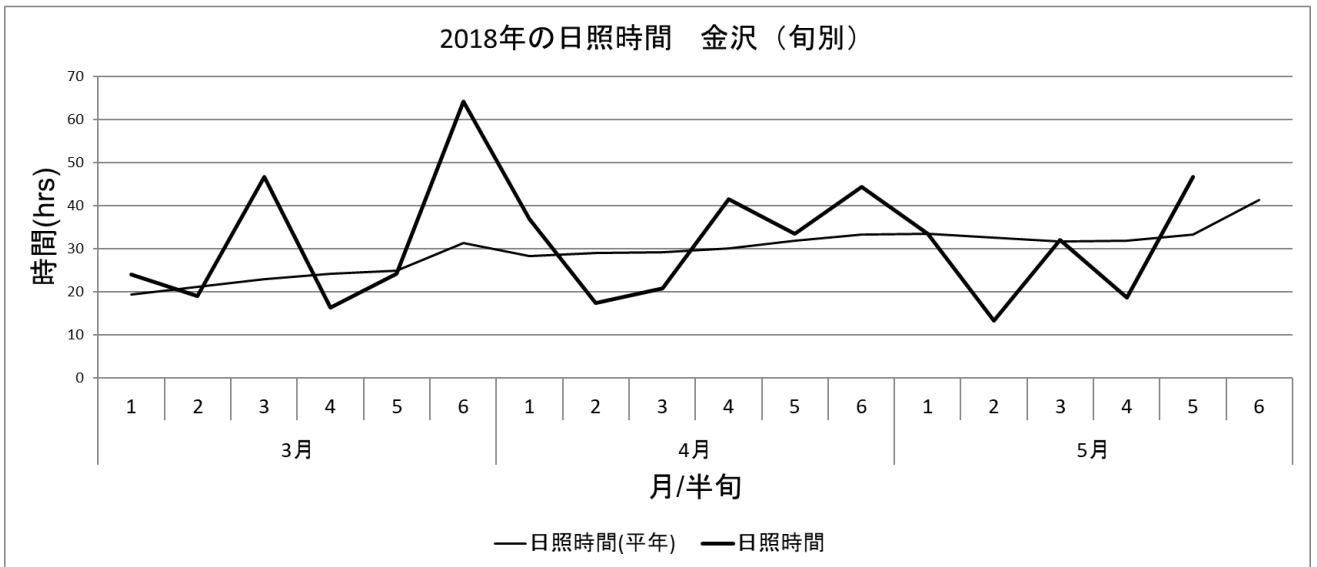
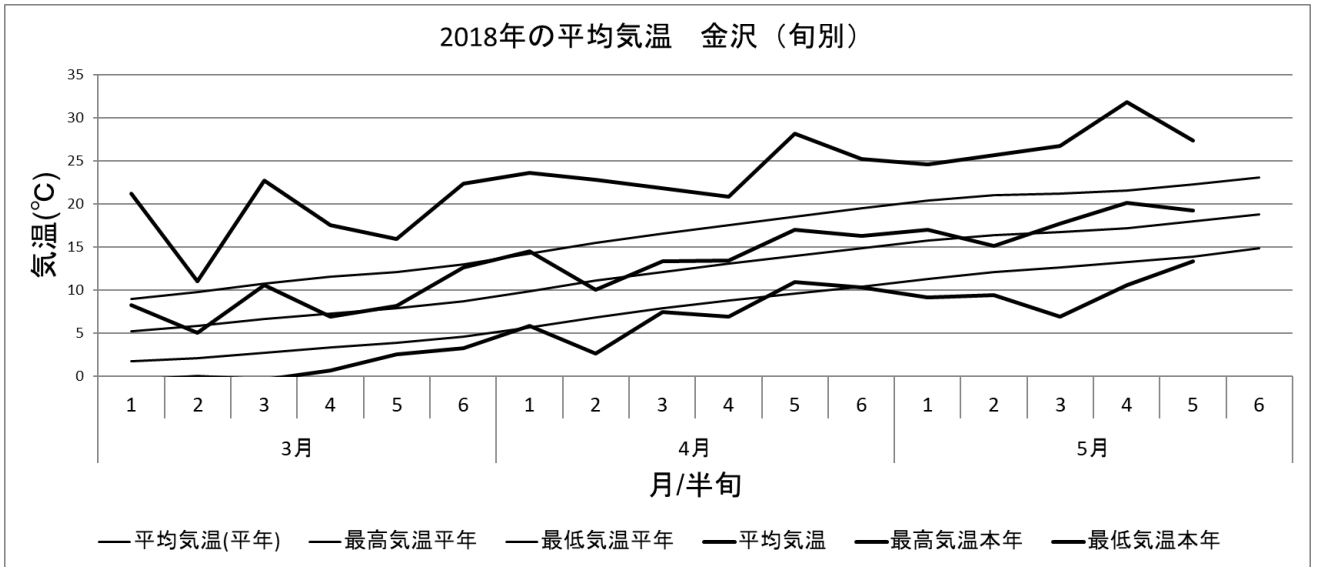
（次ページに続く）

### <参考：葉齢の展開速度と草丈の伸長・茎数の増加について>

葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年と比較すると、草丈の伸長はコシヒカリ、ゆめみづほ、ひやくまん穀のいずれも概ね平年並。茎数の増加についても、コシヒカリ、ゆめみづほともに概ね平年並～やや少なく、ひやくまん穀では少なくなっており、コシヒカリでは葉齢の展開速度よりやや遅く、ゆめみづほでは葉齢の展開速度に見合った生育進度となっている。ひやくまん穀では葉齢の展開速度より遅い生育進度となっている。



# 気象経過イメージ（金沢気象台）



# 気象経過イメージ (金沢気象台)

